

令和元年度 飯綱町社会福祉協議会事業報告

令和元年度は、地域共生社会の実現に向けた包括支援体制の整備と介護・障がい者サービスにおいては住み慣れた地域で暮らしが継続できる支援の強化に取り組みました。

地域共生社会の実現に向けた取り組みとして、つながり隊の支援では新たに4地区をモデル地区に指定しつながり隊の理解が進みました。災害時支えあいマップは新たに5地区で作成が終了し47地区に整備され、総合防災訓練では42地区でマップが活用されました。新たな通いの場の創出では栄町区、高岡地区（11集落）で住民主体の介護予防事業が始まり、全町への展開へ大きく前進することができました。引き続き住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制づくりの支援を積極的に進めてまいります。

多世代交流施設は当初の計画から1年遅れの竣工となりましたが、12月には町から施設の指定管理者の指定を受け、1月下旬に地域福祉課が移転し、3月15日から施設の利用が開始できました。施設の機能を生かし地域共生社会を進めるための人材育成、活動拠点として期待されます。

介護・障がい者サービスでは、各事業所が利用者の望む暮らしが自宅で可能な限り継続できるようまた、利用者の生きがい満足度を高める支援を行いました。その結果、介護保険収入は昨年度に引き続き当初予算を上回る収益を上げることができました。特に訪問介護事業は飛躍的に利用者が増えました。社会情勢に応じて、多様化している生活ニーズに柔軟なサービス提供に努めた結果と評価しております。事業所全体の取り組みについては道半ばですがPDCAサイクルを回し、継続した支援環境の整備に努めてまいります。

平成元年東日本台風では、甚大な被害を受けた豊野町の支援を行うため、飯綱町、信濃町行政と両町社協、社会福祉法人林檎の里が合同で災害ボランティアセンター飯綱町サテライトの運営を実施しました。全国から飯綱町にボランティアが訪れ1,120名を豊野町に送り届けることができました。社協として、災害ボランティアセンターの運営は初めてのことでしたが、行政、福祉関係者、町内のボランティアが連携し運営できたことは今後の事業推進において大きな財産となりました。年号が平成から令和に変わり社協にとっても事業基盤の整備において新しいスタートの一年となりました。

新型コロナウイルス感染症は、他国の出来事と捉えておりましたが、1月から全国各地で感染者が確認され全国に緊急事態宣言が発令される事態となりました。長期的な取り組みが必要となり利用者、職員への感染予防対策と施設内感染の防止に万全を期して事業を進めてまいります。

1 総務課

■重点目標

今後さらに困難を極めることが予測される介護現場の非常勤職員の確保について、新たな採用形態を検討するとともに定年70歳まで勤務可能な働き方の仕組みづくり、介護現場における事務の合理化に取り組み安定した人材の確保に努めます。

また、福祉を取り巻く環境の変化に対応できる職員の育成と、今後多くの定年退職者が見込まれるため世代交代がスムーズに行える職員研修を実施してまいります。

- ① 介護労働環境のイノベーションの推進
 - ・ICT活用による事務事業の効率化
訪問介護・わが家で導入
タブレット9(7:2)台支援ソフト導入
 - ・腰痛予防対策の実践
腰痛予防研修2回・介護リフト2台購入
 - ・通所介護送迎にドライバーの積極的な登用 2名
- ② 安定経営のための提案
 - ・地域包括支援センターの業務委託に向けた町との協議
現行の派遣体制とする
 - ・包括相談支援体制に向けた町への事業提案
令和3年度予算において国が市町村への財政支援を決定したことにより、包括相談支援員に社協人材の活用を依頼
 - ・決算書の分析による経営への提案
 - ・冬期間の高齢者支援の研究・視察
在宅福祉サービス検討委員会開催 4回
視察の実施 野沢温泉村(老人福祉住宅)・津南町(福祉アパート)
- ③ 安定人材の確保
 - ・中途有資格者の採用(地域包括支援センター業務との連動)
包括支援センターの受託については、現行の派遣体制となったため採用は中止
今後の正規職員の定年退職を見据え臨時職員3名を正規登用
 - ・介護事業所事務をサポートする短時間事務職員の採用 1名
- ④ 職員研修の実施
 - ・OJT(法人内研修)の仕組みづくり
法人研修計画作成のみとなってしまった
 - ・キャリアパス実践の仕組みづくり
現行計画のままとなってしまった
 - ・職責に対応したOFF-JT(外部研修)の実施
県社協実施福祉生涯研修に参加
- パート・有期雇用労働法改正への対応
臨時職員就業規程、臨時職員給与規程の改正
- 事故・苦情件数

労災事故報告	5件
車両事故報告	39件
苦情受付	20件(ケアの内容に関わる事項16件)

■課題等

- ・働き方改革に沿った職場環境の整備と慢性的な人材不足の解消

- ① 事故発生（介護・車両）の軽減
- ② ICT活用による業務の効率化（新システム導入）

2 地域福祉課

■重点目標（事業）

○複雑多様化する福祉ニーズに対し、専任の相談員による相談体制の機能強化を図ります。

- ・相談支援体制の整備 年間延べ 4, 242件 【前年比 995 件増】
(別紙グラフ参照)

生活困窮者への相談業務など

- ・日常生活自立支援事業 利用者 5名
- ・成年後見普及啓発事業

○住民ニーズに沿った食事サービスの提供を実施します。

- ・配食サービス（受託事業） 配達食数 7, 922食
食事作ることが困難な人に対し、月～日曜日の朝昼夕の3食を提供
- ・基準を緩和した新たな配食サービス実施 配達食数 4, 480食 【前年比 3, 230 食増】
高齢者に限らず必要な方に対し、食事の提供を行う

○つながり隊を中核とした支え合いの地域づくりの推進をします。

- ・支えあいマップ体制整備事業 現在 47 地区で作成
災害時支えあいマップの整備 新規作成 5 地区 更新 25 地区
マップ活用による日頃からの声かけ見守りの強化
災害時支えあいマップを活用した総合防災訓練の実施の推進
訓練実施 42 地区

- ・つながり隊の事業推進

小地域における福祉推進の中核的団体と位置付け組織づくりの共同推進及び事業
助成を行い、全地域における活動の活性化に取り組む

地区福祉学習会 43回 (20 地区) お楽しみ食事会 23回 (18 地区)
隊長研修会の開催 【4/24 (昼の部)・4/26 (夜の部)】

- ・つながり隊支援事業

モデル地区として、先駆的なつながりづくりの活動に対して助成 4 地区
栄町地区 つながり隊を中心に男性も気軽に集まれる居場所づくり
古町地区 食を通じて楽しめる事業とし公民館にピザ釜づくり
普光寺中部地区 地域の行事に参加しやすい環境づくり
奈良本地区 地域の防災強化と人がつながる居場所づくり

■課題等

- ・生活困窮者や引きこもりの方が家から出て仕事をする訓練として、社協の駐車場の白線引きを実施。他機関（行政、介護保険事業所、ケアマネ、まいさぼ、民生委員など）からの相談が増えてきているが、更に潜在的ニーズの掘り起こしができるよう、事業周知を行って

いく必要がある。また、障害福祉サービス事業者、地域活動支援センターとも連携した利用者支援を進めていきたい。

- ・基準を緩和した配食サービスは増食したが、業務委託先の「日和」が営業を辞めてしまったため他の業者に委託変更したが弁当代が値上がりしたこともあり、希望者が減っている。新たな委託事業者を選定したい。
- ・つながり隊は、住み慣れた地域で自分らしい生活ができるように地域内で助け合う「地域包括ケアシステム」の一翼を担う組織のため、更なる事業推進を図っていく必要がある。令和2年度策定予定の飯綱町地域福祉計画・飯綱町地域福祉活動計画で協議をしたい。

3 居宅介護支援事業（ケアマネジメント）

■重点目標

地域包括ケアの実現に向けて、関係医療機関及び町内事業所と連携をより深め、利用者の望む暮らしが自宅で可能な限り実現され、介護者の負担軽減が図れるよう町内資源のサービス構築を目指します。

- ①医療連携は、これまでと同様に緊密なネットワーク構築を目指し継続実施していきます。病院から自宅・自宅から病院への一連の流れがスムーズに行われるように環境整備に取り組みます。
- ②自宅での生活が最後まで可能となるため、生活支援に関する先進事例を学びながら、飯綱町に則した社会資源が充実したものとなるように環境整備に取り組みます。

○実施内容

- ①医療・介護連携推進関係者研修会や医療・介護・福祉・保健関係者懇親会へ参加することにより、顔の見える関係作りができ、入退院等の連携がスムーズに行われた。
- ②在宅福祉検討委員会にて在宅生活継続のための新たな社会資源の開発について検討。先進地視察を実施したが、新たな社会資源開発には時間を要することを感じた。そこで、まずは現在ある社会資源との連携強化のために民生委員会へ参加し、社協居宅支援事業所を認識していただくよう努めた。

○課題等

- ・病院や各事業所、民生委員をはじめとする地域の社会資源との連携を引き続き行い、その他の社会資源の把握をしていきたい。
- ・令和元年東日本台風時には、当事業所においても緊急連絡が取れないことがあり、今後は緊急連絡先の整備をしていくなど、いざという時にも誰でも対応ができるよう体制を整備する必要がある。

4 ふれあいの園

■重点目標

利用者や家族の思いを尊重し、在宅生活継続の希望が叶えられるサービスの提供をします。“楽しい”“おいしい”“うれしい”“居心地の良い”“元気な”をキーワードに利用者が行きたくなくなるデイサービスとなるために

- ①レクリエーション、入浴、食事等の企画を月1回実施します。
- ②ホスピタリティ溢れる接遇を徹底します。
- ③柔道整復師による、介護職員が実施できる機能訓練プログラムの開発をします。
- ④認知症の利用者にも優しい介護技術の習得と環境整備をします。
- ⑤ニーズに即した柔軟な利用時間を設定しサービス提供します。
- ⑥利用者のコミュニティの場として、積極的なボランティアの受け入れを行います。

○実施内容

- ①月1回、季節毎のお楽しみ企画により、満足度が高まり、利用が増える結果となった。
- ②管理者との面談、チェックシートを用いた職員個々の課題抽出を実施した。職員の長所短所課題を理解することができたが、接遇は徹底できなかった。
- ③機能訓練加算対象者を2名→14名に増やすことができた。機能訓練指導員が自宅でも継続できるようなプログラムを作成し、サービス中だけでなく継続した機能訓練の実現ができた。
- ④認知症介護実践者研修の受講（1名）ができ、修了者を中心に研修会を実施した事により、認知症に対する理解が深まった。
- ⑤すべての希望に対して対応ができ、ご家族からも喜ばれた。
- ⑥新規ボランティアの発掘から、継続して活動いただけるよう声掛けができた。

○課題等

- ・個別指導体制を構築し、すべての利用者に気持ちよく利用いただくため接遇を強化したい。
- ・認知症研修参加により専門知識を身に着けながら、全職員がセンター方式シートを日常的に活用できるよう、施設内研修を実施していく。

5 むれデイサービス

■重点目標

利用者、家族共に満足してもらえるサービスを提供します。

- ①職員間で定期的なグループワーク等をとおして、情報を共有し、コミュニケーションを深めスキルアップを進めます。
- ②地域の方との交流を進めます。
- ③看護師を中心に医療（医師）との連携を進めます。

○実施内容

- ①毎月、「利用者のために」を基礎とした課題解決のためのグループワークをすることで、職員のモチベーションが上がり、職員間のコミュニケーションも増え、チーム強化につながった。
- ②利用者の社会参加促進を目的に、ふれあい広場やゆかいな村の音楽会への参加をした。利用者は喜ばれ、意欲が向上し、また、町民からの反響も大きかった。
- ③主治医、訪問看護、訪問介護とパソコンでの通信を行う事で、情報共有ができた。飯綱病院入院中の患者が退院するにあたり、担当者会議にて事業所としてできることを提案することができた。

○課題等

- ・利用者の増加に伴い、ご家族との対話や認知症利用者とのかかわりの時間がなかなかとれない現状がある。ご家族とは、利用者の自宅での過ごし方や困っていることなどを短い時間で聞き取るよう努め、支援につなげていきたい。グループワークも継続していく。
- ・認知症の方への対応についての研修を行い、介護技術の向上に努めたい。

6 訪問介護（ホームヘルパー）

■重点目標

多様化しているニーズに応えられるよう、関係機関と連携を取りながら支援します。特にICT（情報通信技術）を活用した、医療機関との連携を進めます。

○実施内容

- ・ニーズに即したサービス提供や、事業所側からの提案により、より多くの利用者確保につながったと思われる。
- ・主治医、訪問看護、通所事業所とパソコンでの通信を行うことで、利用者の様子がわかり、それらの情報や主治医からの指示を訪問に役立てることができた。記録については、タブレット端末への入力も習得が進んでいるが、まだ不十分である。

○課題等

- ・利用者の増加に伴い業務に追われてしまい、利用者の思いを十分に聞くことができなかった。利用者が望む在宅生活が実現できるよう、もっと思いに耳を傾け、それを支援につなげたい。
- ・ICTを更に活用することにより、医療や他事業所との連携に役立て、かつ、記録についてはさらにタブレット入力を習得することにより、業務の効率化を図っていきたい。
- ・関係機関との連携強化のため、医療・介護連携推進関係者研修へも積極的に参加していく必要がある。

7 グループホームわが家

■重点目標

生き生きと楽しみをもって生活していただくため、

- ・利用者のやりたいことの願いがかなえられる支援を行います。
- ・ホームの中で役割の持てる生活を支援します。
- ・地区の行事に積極的に参加します。地域の方を受け入れ交流を進めます。
- ・身体機能を出来る限り維持するため日常的な歩行機会を増やします。

ケア力の向上

- ・看取りケアに向けて取り組みます。
- ・センサーの活用について見直し検討を行い、支援の効率化を進めます。

○実施内容

- ・地域行事への参加、子育て支援センターとの交流事業、ボランティアの受け入れを行うことにより、利用者への刺激にもなり、喜んでおられる利用者の姿が見られた。
- ・看取りを視野に訪問看護師との連携を試みたが、利用の制約があったり、費用対効果が見られ

ず、新年度は契約を断念した。ケアマネからは、グループホームで看取りをするということは、入居できる機会が減少してしまうから困るとの声も聞かれた。

- ・センサーについての検討を行った。現在不具合はなく、このまま活用を続けたほうがよいと判断した。
- ・他事業所の利用困難者を、相談から通所利用へつなげたことにより、職員の対応力の向上にもつながった。その利用者は精神的にも安定して、利用が継続できている。
- ・自費宿泊費の金額を改正し、より利用しやすい環境整備を行った。また、入居申し込み者の通所・自費宿泊の利用を進め、退居があってもその後のスムーズな入居につながった。

○課題等

- ・利用者に対する馴れ合いな言葉遣いを、尊厳をもった言葉遣いに改善したい。そのために、職員同士で注意しあえる環境を作りたい。
- ・入所されると家族のつながりが薄くなりがちであり、運営推進会議等への参加が少ない。運営推進会議への参加しやすい内容の検討が必要である。
- ・看取りを考えた時に、訪問看護は、医療依存度が高くても自力で生活動作が可能な利用者であれば利用は有効と考えるが、現在の介護保険制度では導入は困難である（医療保険制度での利用が望ましい）。それだけでなく、環境設備や人員確保、職員研修等必要である。

8 りんごパーク

■重点目標

総合事業の軽度利用者から中重度の要介護利用者の方々まで、パワーリハビリテーションの効果・予防介護の必要性をPRし、実践と共に生活動作の改善や行動変容、家族負担の軽減を目指した支援サービスを展開していきます。

- ①マシントレーニングを中心に、重度化予防の体操・脳トレを組み合わせたプログラムで効果を引き出していきます。
- ②目に見える数値的評価に体組成計等を使用し、多くの利用者やその家族にもその状態をお知らせしていきます。

○実施内容

- ・生活動作の改善が見込まれる方には、効果的にパワーリハビリテーションと、体操と日々の生活に役立つ脳トレを組み合わせたプログラムを提供することができた。
- ・定期的な体力測定結果の数値により改善の効果を実感でき、意欲の向上につながった。しかし、利用者や家族への報告まではできなかった。

○課題等

- ・要介護者の割合が減少している。予防介護の必要性をPRするまでに至っていないので、要介護者にも広く利用していただくために、ケアマネに向けて写真や動画の活用等によりPRをしていきたい。
- ・専門的評価があればもっと利用したいとの声も聞かれた。体組成計の数値を評価につなげることもできなかった。評価をするためには、理学療法士等専門的サービスを導入できるか研究をしていきたい。

9 さみずの郷

■重点目標

総合事業の拠点づくりとしてきた介護予防サービスの活動・その展開も3年目を迎えて、稼働率やサービス内容ともに安定化を図っていきます。更に喜びと生きがいつくりの交流を充実させながら社会参加を目指していきます。

- ①男性利用者も利用しやすい環境を配置して、閉じこもり防止の為に体力づくりや行事、趣味、お出かけ訓練を実施していきます。
- ②短期介護予防教室を年間4クール準備し、健康延伸プログラムからの掘り起しを地域B・現行サービスへつなげていきます。(お元気クラブへの職員の配置もして予防事業の受託も手掛けていきます)

○実施内容

- ①利用者同士の交流も深まり、閉じこもり防止につながっている。男性利用者も少しずつ増えてきた。
- ②短期予防教室3か月×3クールを実施し、潜在化する利用者の掘り起こしができ、現行事業や地域の予防事業(通所B)につなげることができた。
 - ・町一般介護予防事業のお元気クラブ、すてきなおやじさんくらぶを受託実施し、それぞれの参加者から好評を得ている。特に、すてきなおやじさんくらぶでは、そば打ち、料理教室をとおして、参加者が自分の可能性を見出す活動ができた。
 - ・在宅福祉サービス検討委員会で、プロが行う介護予防サービスについての検討を行ったが、モデル実施にまでは至らなかった。

○課題等

- ・より男性が利用しやすい環境づくりのために、体力づくりができるようなプログラムを開発していきたい。
- ・半日利用など、利用者のニーズに合わせ柔軟に対応していく。
- ・プロのサービスから地域の予防事業に帰す(卒業)ことができるよう、介護予防事業所としての力を発揮させるため、その在り方や仕組みをつくる必要がある。

令和元年地域福祉課事業実績

■総合的企画

1. ふれあい広場の企画実施 【6/24】 参加者1,100名
2. 福祉フォーラムの企画実施 新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止【予定日3/7】
3. 飯綱町地域福祉活動計画の推進
4. 社協運営推進会議の開催 【7月・11月】
5. 住民主体による高齢者の居場所づくりの財政支援 2地区
6. ボランティア及び町民活動の振興拠点整備
町が進める「多世代交流施設」への地域福祉課移転整備
7. 社協会費の募集

実績	会費総額	3,483,500円
----	------	------------

■高齢者福祉

1. 一人暮らしなど高齢者の交流事業(わらび会)の開催

年6回 参加者321名 【ボランティア協力者61名・演芸等協力団体4団体】

2. おせち料理の宅配事業 203食 [ボランティアの方がつくる食数、場所も200食が限界数]
3. いきいきサロンの推進 年間延べ参加者数6,328名《延べ開催回数288回》
4. いきいきサロン全員集合(連絡調整会)の開催 新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止【予定日3/24】
5. 老人クラブ連合会への協力
6. 引きこもり高齢者の支援事業

■障害者福祉

1. 北部地区障害者自立支援協議会への協力
2. 飯綱町障害者JV会議への協力
3. 身体障害者福祉協会への協力 親睦旅行 和倉温泉方面
4. 手をつなぐ育成会への協力 親睦旅行 万座温泉方面
5. 知的障害者等社会参加推進事業(SO日常化プログラム) 年11回 参加者58名
6. 共同募金福祉車両貸出事業 16世帯 117件
7. 車椅子の貸出事業 60件

■青少年健全育成及び福祉教育

1. があたく塾の開催
2. 高校生ボランティア活動の支援(アルミ缶プレス)
3. 総合的学習の授業への協力 26回
4. 社会福祉協力校指定事業(小学校2校・中学校1校・高校1校)
5. 幼児・児童・生徒との各種交流の促進

■ボランティア及び住民活動の振興・育成

1. ボランティアセンターの運営
2. ボランティア活動・市民活動等への相談及び活動のコーディネート
3. ボランティア養成講座の開催
4. ボランティア連絡会への協力
ボランティア連絡会松本市視察研修 【6/3】 参加者26名
5. ボランティアセンター運営委員会の開催 年3回

現在社協で把握しているボランティアの活動者の人数・団体

区分	団体数	人数
個人ボランティア数		54名
「ボランティア活動を主目的としている団体」の団体数と所属人数	20団体	365名
「ボランティア活動を主目的としていない団体」の団体数と実活動人数	13団体	440名
合計	33団体	859名

■調査・広報活動

1. 各種ニーズ調査
つながり隊の認知度や地区内での助けあい活動などの状況調査
2. 広報紙(ふれあいポケット)の発行 【年12回発行】
3. ホームページによる情報の提供
4. 地区懇談会等の開催

■関連する事業との連携

1. 民生委員会との連携
2. 保健福祉課との事業連携

3. 町内福祉施設及び事業者との連携

■共同募金事業

1 世帯 1,000 円（目標）の共同募金の実施

実績	募金総額	2,847,446 円
----	------	-------------

■福祉サービス利用支援事業

1. 日常生活金銭管理事業

日常生活自立支援事業	5 件
金銭管理・財産保全生活サポート事業	9 件

■生活困窮者支援

1. 生活福祉資金の貸付業務 3 世帯 5 資金
2. 生活困窮者つなぎ資金の貸付業務
3. 生活困窮者支援事業（まいサポ）の相談窓口（インテーク） 7 件
4. 生活困窮者の就労支援事業関係

■その他

1. 災害援護事業（災害救援体制の整備）

実績	募金総額	1,511,740 円
----	------	-------------
2. 日本赤十字社事業への協力 日赤奉仕団員白馬村視察研修 【7/31】 参加者 39 名
3. 日赤奉仕団活動への支援
4. 環境活動への支援
5. 戦没者追悼式への協力
6. 遺族会への協力
7. 特定目的の寄付について、その趣旨の沿った事業の実施
8. 飯綱町サテライト（令和元年 10 月 23 日～11 月 24 日）
行政（信濃町、飯綱町）、あおぞら、社協（信濃町、飯綱町）のスタッフが運営
ボランティア連絡会「受付」、三水消費者の会「炊出し」の支援
ボランティア活動者数 … 延べ 1,120 名（内町内からの活動者 106 名）
運営スタッフ … 延べ 278 名

令和元年度受託事業実績

1. 家族介護支援事業等

老いの支度講座の開催	全 6 回	参加者 114 名
在宅介護教室	全 6 回	参加者 47 名
オレンジパートナーフォローアップ講座		

2. 在宅介護者リフレッシュ事業

日帰り小旅行（4 回/年）… 信州小諸菱野温泉 常盤館 信州浅間温泉 ホテルおもと
別所温泉 かわせみの宿 湯田中温泉 一茶のこみち美湯の宿
認知症の方を支える方の日帰り小旅行（1 回/年）… 関谷温泉 湯っ蔵んど
介護者との懇談会（1 回/年）… 赤倉温泉 赤倉観光ホテル

3. 生活支援体制整備事業【第 1 層コーディネーター】

飯綱町新しい総合事業のコーディネーター業務の支援、サービスの普及・啓発及び開発
総合事業に関する説明会の開催 8 回 参加者 193 名
広報紙「ふれあいぼけっと」「ホームページ」への掲載
新たな「通いの場」の創設支援

新たに通いの場を設置した団体への立ち上げおよび運営支援、通いの場 MAP の作成
体力測定、フレイルチェック、基本チェックリストを通じたフレイル予知及び予防の推進
サービスの担い手の養成、ステップアップ講座

高齢者支援・介護サービスの担い手養成研修の開催 2回 参加者 9名

関係機関の情報共有、サービス提供間の連携づくり

地域包括支援センターとの連携強化、定期的な情報共有を目的とした会議への参加
理化学研究所との協働による脆弱化の予知・予防に関する研究の実施

飯綱中学校生徒の通いの場参画に関する企画及び調整

健康づくりポイント実証実験事業の実施

サービス会議（協議体）の企画運営

生活支援協議体の開催 1回

4. 生活支援体制整備事業【第2・3層コーディネーター】

飯綱町新しい総合事業のコーディネーター業務

住民主体型サービスの実施状況の把握及び運営支援

通所型サービスB 7団体 延べ参加者数 4, 415名

訪問型サービスD 5団体の運営を支援

令和2年3月はほとんどの地区で「新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止」

地域包括支援センターと協働による利用者支援

潜在的要援護者へのアプローチ

生活支援・介護サービス提供団体と連携し、利用者へのサービスの利用調整業務

従事者を対象とした研修の企画及び実施 6回 参加者 145名

サービス利用者と協力者のマッチング

有償たすけあいサービスに関する説明会の開催（65歳アシストセミナーにて説明） 11回

有償たすけあいサービスの実施 相談・調整件数 148件

サービス利用促進のための普及・啓発

多世代交流施設パワーリハビリ室の利用促進

パワーリハビリ説明会、学びなおし講座、実践講座 全8回 延べ参加者 117名

介護保険サービス・公的サービスへの橋渡し業務

5. 結婚相談所運営事業

相談実績 来所 90件 電話 523件 合計 613件

結婚相談所協力員の研修会の実施 婚活 de 八ヶ岳推進委員会 山梨県北杜市

女性を対象とした情報交換会の「ときめきクラブ」と男性を対象とした「もて塾」を合同
で開催 5回 延べ参加者数 女性 19 男性 20名

専用駐車場の農地転用、賃貸借用契約

婚活パーティーの開催 3回 女性 34名 男性 37名

長野圏域ポータブルサイト（長野市主催）会議 2回 男性セミナー 1回 婚活パーティー 1回

長野県元気づくり支援金事業申請（上水内郡移住婚活イベント）

6. 子どもの居場所促進事業（こども食堂「てんぐカフェ」）

年 15回開催 延べ参加者数 516名 延べスタッフ数 191名

スタッフ会議 3回 調理研修会 1回

先進地視察研修の実施 なかのこども食堂 2回

拠点での備品整備

7. 地域住民グループ支援事業

いきいきサロン活動助成（延べ利用数 6,328名）

つながり隊活動助成 (隊長会議、50 地区事業費、学習会 43 回)
オレンジカフェ (認知症カフェ) (1 1回/年) 参加者 2 1 7 名
3 月は新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止

8. 「食」の自立支援事業 (高齢者) 配達食数 7, 3 5 6 食
9. 「食」の自立支援事業 (障がい者) 配達食数 5 6 6 件
10. 成年後見制度普及啓発事業 (アイサポート 4 回 (障がい特性の啓発))
11. 認知症高齢者やすらぎ支援事業 対象者 0 件